

① 宮崎県M社N農場（母豚600頭・種雄豚 頭）のお話

M社には直営農場が10以上あり、2農場でアドヘルスを使用しています。N農場はスタッフのスキル、モチベーションが直営農場内トップクラスで水質や気温など厳しい条件の中好成績を維持しています！

「本社からの推進でアドヘルスを使い始めました。前場長の時代から使用しているので成績の変化については答えられないのですが、母豚の回転率、産子数で良い結果を出しています。

アドヘルスは夏場対策として使用しており、主な使用目的は発情再帰日数の短縮と受胎率維持です。分娩舎から種付けまで給与していた時もありますが、現在は離乳前1週間1日30gの給与プログラムで試しています。今後も継続して使用する予定です」



① 千葉県S農場（母豚130頭・種雄豚10頭）のお話

母豚の健康管理を総合的に考え、アドヘルスを採用いただきました。発情再帰が良くなったと実感いただいています！！



「3年前に営業の方から提案頂いたサーコと夏場対策の母豚改善プログラムの一貫としてアドヘルスを使用し始めました。夏場の繁殖管理ということで5月から10月に1日30gを分娩舎に移動してから種付後20日頃まで給与しています。効果が実感できたので、今年は冬場も1日15g給与しています。

以前は、繁殖対策としてビタミンEやアミノ酸などの製品を使用していましたが効果の実感無く、長続きしませんでした。アドヘルスを給与してからは特に発情再帰が良くなったと感じています。営業の方も話していた通り、急に良くなるのではなく、徐々に良くなっている印象です。」

千葉県A農場(母豚150頭)のお話

A農場様にはPED後の繁殖対策としてアドヘルスを紹介し、興味を持っていただきました。試しに使用していただいたところ発情がしっかり来ることを実感され、現在は継続使用しています。

アドヘルスを使い始めたきっかけは？

「昨年の夏ごろにPED自体は治まったのですが、母豚へのダメージが残っていると感じていました。具体的には、発情がなかなか来ない母豚がいて困っていました。営業の方に相談したところ、アドヘルスを紹介していただき使い始めました。

また、最近では母豚を自家育成に移行していて、産子数UPも期待して使用しています。」



ご使用方法はどのようにしていますか？

「経産豚では分娩から種付までの間、毎日1頭あたり25g給与しています。未経産豚では種付の1ヶ月前から種付までの間、毎日1頭あたり25g給与し、良い結果が出ています。」



ご使用いただいた感想は？

「アドヘルス給与前は、離乳後4、5日しても発情が来ない豚は次の周期にも来ない場合が多かったのですが、アドヘルス給与後は、次の周期には確実に発情が来るようになり、種付までの日数がグッと縮まりました。



アドヘルスを給与してから分娩率が88%から90%に2%増加し、出荷頭数も増加しました。発情がしっかり来ることで、受胎率も上がり、結果的に分娩率も上がったのではないかと考えています。また、産子数も増えているように感じています。

トップドレスで給与していますが、嗜好性も問題なく、しっかり食べています。